

営業の概況



2002年3月期の連結売上高は16.7%減少し、5,750億29百万円となりました。

電子素材部品部門は、前期爆発的普及を遂げた携帯電話と活発だったIT需要が当期に入って急速に減退した影響を受け、得意先の大幅な在庫調整等による部品の需要低迷が続いた結果、当部門全般において売上高が大幅に減少しました。一方、記録メディア・システムズ製品部門は、オーディオテープ、ビデオテープの総需要減少の影響があったものの、需要が拡大した光ディスクやレコーディング機器などの売上げが寄与し、当部門の売上高は微増となりました。以下に製品別の概況を説明します。

電子素材部品部門

電子素材部品部門は、前期比21.6%減の4,329億51百万円となりました。当部門全般において、前年度第4四半期頃から始まった米国経済の景気減速に加え、世界的なIT投資需要の減速を背景に、広い分野に亘って得意先の在庫調整が進みました。また、デジタルネットワーク技術を進化させてきた携帯電話とPCの世界需要に対する市場全体の見通しが過大であったため、当該市場では裾野にあたる電子部品の在庫が乗数的過剰となり、調整期間が長引いています。その結果、当期の売上高は大幅に減少しました。製品毎の概況については以下のとおりです。

電子材料製品



フェライトコア



フェライトマグネット



積層チップコンデンサ



希土類マグネット

[製品説明] 積層チップコンデンサは、チタン酸バリウムや酸化チタンの誘電体とパラジウムやニッケルの内部電極を薄膜にして交互に何層も重ね合わせたもので、主に電気エネルギーを蓄え、電圧の変動を抑えたり、またノイズを除去する用途に使われます。

フェライトは、基本的に酸化鉄と酸化ニッケルまたは酸化亜鉛などの金属酸化物との組み合わせによる結晶構造を持つセラミック材料です。フェライトは、主に2つの用途があります。1つはトランスやコイルのコア(磁心)に使われ、これらの効率及び性能の向上を助けます。もう1つはマグネットで、主にOA機器、AV機器および自動車のモーターに使用されます。その他に、TDKは希土類マグネットを製造しています。このマグネットはフェライトマグネットと比べて大きさの割に大量のエネルギーを貯えることができるので、ハードディスクドライブ(HDD)などに使われているモーターの小型化、軽量化に役立っています。

[売上高概況] 電子材料製品の売上高は、前期比23.7%減の1,618億46百万円となりました。

コンデンサ——当製品区分の売上高の過半を占める積層チップコンデンサは、前期に大幅に伸びたPC関連ならびに携帯電話向けを中心に低迷したことから、売上高が大幅に減少しました。一方で自動車の電装化の進展に伴い、当分野向けの売上高が若干増加しましたが、全体における構成比としてはまだ小さいため、コンデンサ全体の売上高の減少をカバーすることができませんでした。

フェライトコア及びマグネット——フェライトコアの中で前期好調であったADSL(非対称デジタル加入者回線)等の情報通信用コアの売上高は、IT投資需要の減速を背景に大幅に減少しました。また、テレビ・PC用モニターの主要部品である偏向ヨークコアとフライバックトランスコアも競争激化により売上高が減少しました。マグネットは、自動車分野向けフェライトマグネットの売上高が自動車の電装化と為替の影響でほぼ横ばいを維持できたものの、PC関連やAV機器用モーター向けの需要が減少し、マグネット全体としては売上高が減少しました。

電子デバイス製品



コイル(インダクタ)



チップバリスタ



高周波部品



DC-DC コンバータ



チップビーズ

[製品説明] 電子デバイス製品は、インダクティブ・デバイス、高周波部品、電源などのその他製品に分けられます。インダクティブ・デバイスには、電線をらせん状に巻き線したり、印刷や薄膜によってパターン化し、電流の変化を抑えるコイル、コンデンサとコイルを組み合わせる電気回路の円滑な動作を妨げるノイズを除去するEMC対策部品(ノイズフィルタなど)、主に交流電圧の昇降に使われるトランスなどがあります。

高周波部品には、フェライトを使って電波の交通整理をするアイソレータ、携帯電話で特定の周波数を作り出す回路に用いられるVCO(電圧制御発振器)、同じく携帯電話に使われるも

のとして、送受信時に異なる周波数の電波を振り分けたり、混合したりするダイプレクサなどがあります。

また、電源には交流を直流に変換する通常のスイッチング電源や、逆に直流を交流に変換するDC/ACインバータ、直流から直流へ電圧を昇降圧するDC/DCコンバータなどがあります。

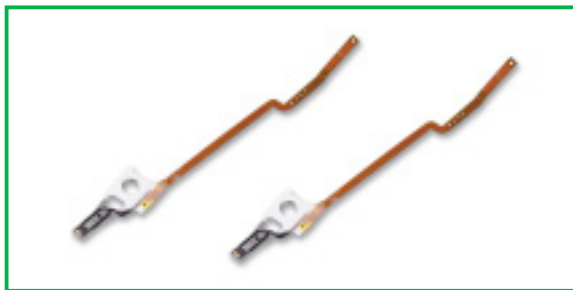
[売上高概況] 電子デバイス製品の売上高は、前期比27.0%減の1,059億37百万円となりました。

インダクティブ・デバイス—— 当製品区分の主要な製品カテゴリーであるインダクティブ・デバイスは、自動車の電装化の進展により当分野向け売上高が若干増加したものの、売上高の中心であるAV、PC関連市場及び通信市場向けが減少し、全体としては売上高が減少しました。

高周波部品—— 高周波部品は、携帯電話を中心とした通信分野向け売上高の構成比が高く、携帯電話市場の大幅な減速の影響を受け、売上高は他の製品と比較して大幅に減少しました。

その他の製品—— チップNTCサーミスタ等の製品が、携帯電話等の需要減少に伴い売上高が減少したものの、アミューズメント向けDC/DCコンバータが好調だったことなどにより、売上高はほぼ横ばいとなりました。

記録デバイス製品



GMRヘッド

[製品説明] 記録デバイス製品のメイン製品は、ハードディスクドライブ(HDD)に使われる磁気記録ヘッドです。磁気記録ヘッドは、磁気の変化を抵抗値の変化としてとらえるMR(磁気抵抗)素子を用いて、ディスクに記録した信号の読み出しを行います。現在は、MRヘッドより極めて高い再生感度を持つGMR(巨大磁気抵抗効果)ヘッドが主流になっています。また、その他の製品として、フロッピーディスクドライブ(FDD)に使われる磁気記録ヘッド、サーマルヘッドもあります。

[売上高概況] 記録デバイス製品の売上高は、前期比13.1%減の1,470億4百万円となりました。当上期は、市場の主流であった30ギガバイト/ディスク製品において、TDKは競合他社に対して遅れをとったためにマーケットシェアが低下したこと、また、PCの需要低迷の影響を受け得意先がHDDの生産調整を行ったことにより、HDD用ヘッドの需要が低下し、売上高が減少しました。しかしながら、次世代の40ギガバイト/ディスク製品は得意先の評価が良好であり、その結果、出荷が徐々に増えマーケットシェアも回復してきました。これにより、HDD用ヘッドの当下期売上高は、上期との比較で大幅に増加し、通期の売上高減少を一部抑えることができました。その他ヘッドについては、需要減速等の影響を受け、売上高が減少しております。

当期のHDD用ヘッド需要を見てもみると、HDDの需要が若干の減少であったのに対し、HDD用ヘッドの需要は10%以上減少しました。これは、HDD用ヘッドの面記録密度が急速に上昇したことにより、HDD1台当たりに使われるHDD用ヘッドの平均個数が減少したことによります。将来的には、PC、サーバー以外の新しいHDDの需要拡大が期待されていますが、当面このHDD

1台当りに使われるHDD用ヘッドの平均個数が減少する傾向は続くであろうと見えています。このような環境の中で、今後は、得意先の要求や信頼にスピーディかつ安定して応えられる体制を確立し、マーケットシェアの拡大を目指します。

IC 関連その他製品



LAN用 IC



電波暗室

[製品説明] 当部門の売上高は、主にモデム、LAN等に使用される通信用半導体、FA装置及び電波暗室の販売で構成されています。ケーブルテレビ用セット・トップ・ボックスのモデム用ICとLAN用IC、その他通信向けICは、米国にあるTDK Semiconductor社で設計しています。FA装置は主に回路基板に電子部品を超高速で、そして正確に装着するシステムです。電波暗室は電磁波の反射を阻止するように設計された空間で、あらゆる製品のEMC評価や対策のために利用されています。

[売上高概況] IC関連その他製品の売上高は、前期比29.3%減の181億64百万円となりました。前期、半導体需要を牽引した通信インフラ機器及びPCが、当期に入って減退したことにより、半導体市場は減速を続け、WAN/LAN用およびセット・トップ・ボックスのモデム用半導体の売上高は大幅に減少しました。一方、製品のデジタル化および高周波化対応の追い風を受けてノイズ対策のための電波暗室や測定システムのビジネスが堅調に売上高を伸ばしましたが、半導体の売上高の減少を吸収することはできませんでした。

記録メディア・システムズ製品部門



CD-R



DVD-RW



コンピュータ用データストレージテープ

【製品説明】 当製品部門は、オーディオテープ、ビデオテープ、光ディスク及びソフトが主な製品です。その中で、アナログからデジタルへの移行という時代の変化に沿って、光ディスクの売上比率が高まっています。光ディスクには、一度だけ記録ができる追記型CDのCD-R、繰り返して記録できる書き換え型のCD-RW、またCD/CD-R/CD-RWと同じ直径12cmですが動画などの保存やパソコンデータのバックアップなどに最適な大容量DVD-R、DVD-RAM、DVD-RWがあります。また、CD-R/RWドライブやインターネットからPCなどで取り込んだMP3ファイルを再生するCDプレーヤーなどのレコーディング機器、データのバックアップ用としてのコンピュータ用データストレージテープもあります。

【売上高概況】 記録メディア・システムズ製品部門の売上高は、前期比3.2%増の1,420億78百万円となりました。

当部門の増収の主な要因は以下になります。オーディオテープ、ビデオテープは、光ディスクへのシフトや録画済DVDソフトの普及により、長期的に需要が減退し続けており、売上高が前期に引き続き減少しました。光ディスクの売上高の中心となるCD-Rは、前期比で売価が下落しているものの、数量ベースで増加したため売上高は増加しました。また、円安の要因や前期秋ごろから米国で発売を開始したレコーディング機器を、当期は欧州でも販売開始したため売上高増に寄与しました。

コンピュータ用データストレージテープは、当期中にLTO (Linear Tape-Open) という新しい規格の承認を取得し、販売を開始したことにより売上高が増加しました。今後は、新たな規格の承認化に取り組み、売上高の拡大に努めてまいります。